

火災から命を守る

住宅防火読本



はじめに

住宅における火災発生件数や死者数については、平成 18 年に住宅用火災警報器の設置が義務付けられるなど住宅防火対策の関心の高まりなどの効果もあり、減少傾向にあります。また、まだまだ十分ではありません。さらに、住宅防火対策を継続的に行うことが必要とされています。

住宅火災を防ぐには、日頃から火災の予防に心がけるとともに、万が一火災が発生した場合の対策を講じ、被害を最小限にする手だてをしておくことが必要です。

このためには、出火危険性の少ない暖房器具や調理器具を使用する、あるいは出火の危険性が考えられる暖房器具や調理器具を使用する場合には、その安全な取扱いを知っておくことも重要です。

この冊子は、当委員会において、今までに作成してきました住宅用火災警報器や住宅用消火器に関する事項を取りまとめ、住宅全体における火災安全対策として、分かりやすく編集したものです。

住宅用火災警報器の全国の設置率は、平成 28 年 6 月時点で、81.2% となっている一方で、設置の義務付けからおおむね 10 年が経過していますので、電池切れや性能・機能の低下などにより、更新の時期を迎えようとしています。

このような状況において、住宅防火対策の読本として、日頃からこの冊子に目を通していただき、火災予防に活用していただくとともに、万が一火災が発生した場合における対応についても理解していただくことを期待しています。

この冊子が活用され、防火対策がさらに充実し、火災被害を食い止めたり、軽減することに役立てていただければ幸いです。

平成 29 年 1 月

総合的な住宅防火対策等の啓発に関する検討委員会



この冊子を活用しましょう！

住宅用火災警報器が鳴ったとき、みなさんはどのように行動しますか？

この冊子では、住宅に潜む火災の危険とその予防対策を、また、万が一火災が発生したときの行動について説明しています。

いざというときにそなえて、ぜひご活用ください。



目次

第1章 火災の実態

- 住宅火災の実態を知ろう！・・・4
 - 原因別にみる！火災の危険・・・6
 - たばこによる火災の対策・・・8
 - 電気器具類による火災の対策・・・10
 - ストーブによる火災の対策・・・12
 - こんろによる火災の対策・・・14
 - 放火の対策・・・16
-

第2章 火災を防ぐために

- 火災を防ぐためにはこんな防火・防災製品があります！・・・18
 - 知らせる！住宅用火災警報器は命を守る・・・20・22
 - 初期消火に有効！住宅用消火器具・・・24・26・28
 - その他の防火・防災製品・・・30・32
-

第3章 火災が起きたら

- 住宅用火災警報器が鳴ったら・・・34
 - 消火するか・・・36
 - 火を消すことができたら・・・38
 - 周りに知らせよう・・・40
 - 避難しよう・・・41
 - 消防に通報する・・・42
-

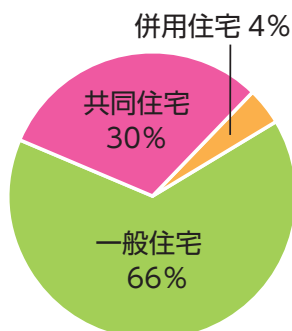
資料

- 日頃から家族で話し合っておきましょう・・・44
- 火災予防のチェックポイント・・・46

住宅火災の実態を知ろう！



1日約32件、約45分に1件
誰かの家で火の手が上がる！



住宅火災は財産だけでなく、自分や家族の命、ご近所の方の安全をも危険にさらす恐ろしいものです。

住宅火災の件数（放火を除く）は、全国で年間11,855件。1日に換算すると約32件、約45分に1件、火の手が上がっています。**火災の危険は想像以上に身近なところにあるのです。**

出典：火災の実態について
(平成26年中)
消防庁予防課

1年間の住宅火災件数



11,855件



早期発見を心がけて**適切な行動**を!

住宅火災から大切な家族を守るためには、いくつかの対策が考えられます。まず、**いちばん大切なのは、火災を早く見つけること!** そして、**初期の段階で適切な行動をとること**です。そのために必要な知識と防火・防災機器について知っておきましょう。



火事だー

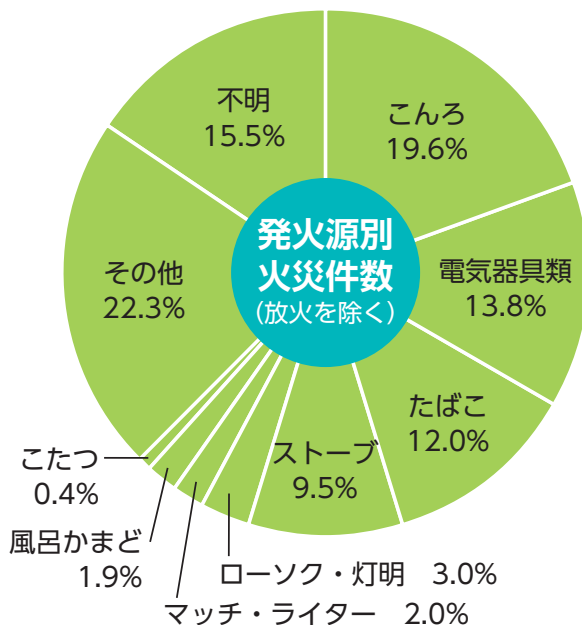


原因別にみる！火災の危険

ここでは、住宅火災の原因と死者数について説明します。

住宅火災の“発火源”は？

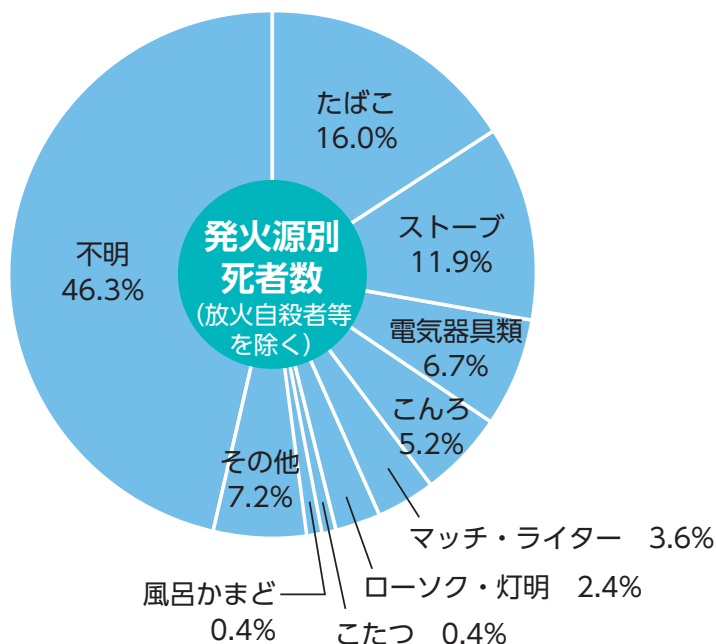
発火源別火災件数の第1位は「**こんろ**」、
第2位は「**電気器具類**」、第3位は「**たばこ**」



出典：火災の実態について
(平成 26 年中)
消防庁予防課

住宅火災の発火源別死者数は？

発火源別死者数の第1位は「**たばこ**」、
第2位は「**ストーブ**」、第3位は「**電気器具類**」



出典：火災の実態について
(平成26年中)
消防庁予防課

たばこによる火災の対策

ここでは火災原因の一つ、「たばこによる火災」について説明します。

たばこによる火災を知ろう！



**長い時間をかけて火災になる
たばこによる火災の怖さ**

.....

注意点と予防方法

①寝たばこは絶対にしない！

たばこの火がついた布団は、炎を上げないでゆっくりと燃焼を続け、空気の流入などの条件が揃うと、炎を上げて燃え始めます。布団などの近くでは、たばこを吸わないようにしましょう。



②たばこの火は必ず消すこと！

たばこの火は必ず消しましょう。吸殻は必ず灰皿に入れ、火が消えていることを確認しましょう。

また、家の中で喫煙場所を決めておくことも、たばこによる火災を未然に防ぐ基本的な方法です。



たばこによる火災事例

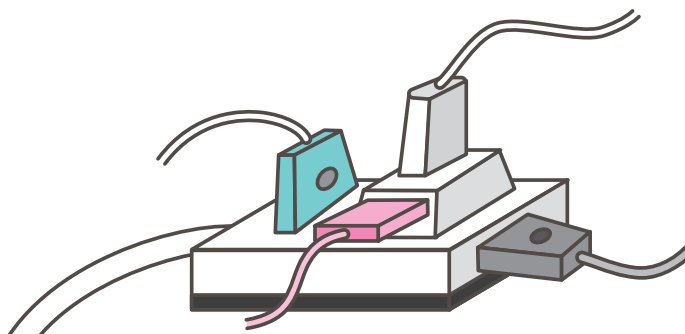
家の中でくわえたばこをしながら歩いており、気がつかないうちに火種がソファーに落下。外出から戻ってきたら火災になっていた。




電気器具類による火災の対策

ここでは火災原因の一つ、「電気器具類による火災」について説明します。

電気器具類による火災を知ろう！



 **電気器具類の発熱注意**
見えないところで発火することも

.....

注意点と予防方法

①コード類の取扱いに注意！

許容電流を超えることで発熱・発火するタコ足配線は、火災原因の一つです。

また、コードに重いものを乗せると配線に負荷がかかってショートすることもあるので、気をつけましょう。



②トラッキング現象に注意！

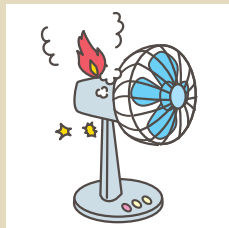
コンセントと電気プラグの間にホコリ等が溜まり、湿気が加わるとそれが導線になり電気が流れます。やがてそこから発火するのが「トラッキング現象」です。

コンセントの周りにはこまめに掃除をして、ホコリを溜めないようにしましょう。



古い扇風機からの火災事例

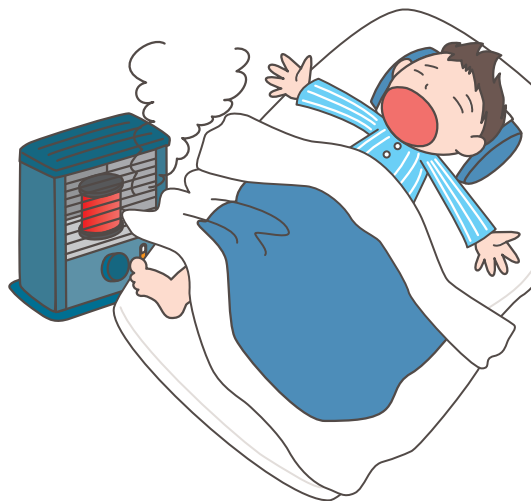
長期間扇風機を使っていたため、首振り部分の内部配線にストレスが加わり芯線が断線して、スパークが発生、周囲のホコリに着火・発火した。




ストーブによる火災の対策

ここでは火災原因等の一つ、「ストーブによる火災」について説明します。

ストーブによる火災を知ろう！



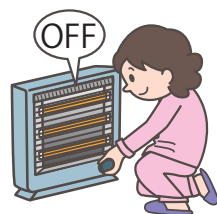
 **ストーブの周りは常に警戒、
離れるときは必ず火を消すこと！！**

.....

注意点と予防方法

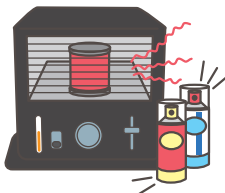
①就寝前は必ず電源をオフに！

石油ストーブより、電気ストーブが火災の原因として多いのが実情です。就寝前は油断せず、必ず電源をオフにする習慣をつけましょう。



②給油・移動は特に注意を！

石油ストーブの場合、火をつけたままの給油や、持ち運びは絶対にしてはいけません。



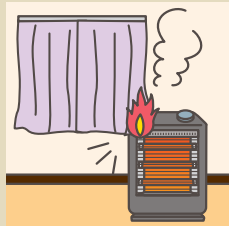
③ストーブの周りを警戒！

石油、電気を問わずスプレー缶など破裂の可能性があるものや、洗濯物や布団などの燃えやすいものは近くに置かないようにしましょう。



ストーブの火災事例

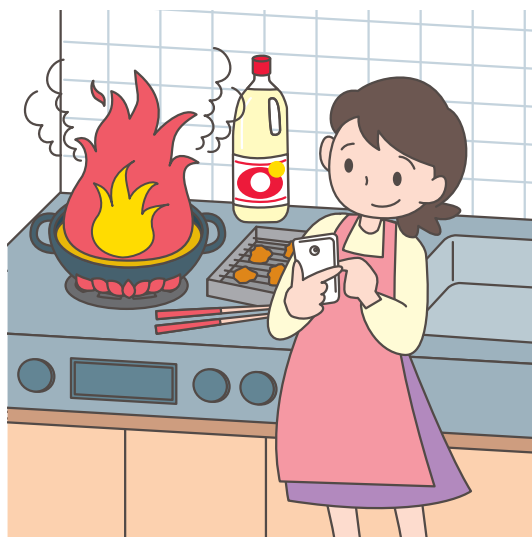
ストーブの電源をオフにするのを忘れて外出。
近くにあったカーテンがストーブに触れ、
カーテンから出火してしまった。



こんろによる火災の対策

ここでは火災原因等の一つ、「こんろによる火災」について説明します。

こんろによる火災を知ろう！



調理中は絶対に**その場を離れない**、
離れるときは必ず**火を消すこと**!!

注意点と予防方法

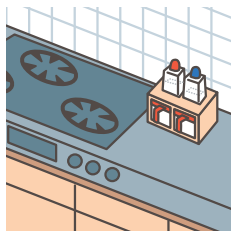
① 着衣着火に注意！

着衣着火とは、こんろの炎が衣服に燃え移ることです。袖口などは特に注意を払いましょう。防災品であるアームカバーなどを着用すると安心です。



② こんろの周りに物は置かない！

こんろの近くに置いていたふきんに、火が燃え移ってしまうこともあります。こんろの周りには物を置かないようにしましょう。



地震が起きたときは

調理中に地震が発生したら、慌てずに火を消すなど、身の安全をはかりましょう。



放火の対策

「出火原因」第一位は、18年連続で「放火」です。ここでは、「放火」について説明します。

平成27年版消防白書より

放火を知ろう！



『放火されない』、『放火させない』、
『拡大させない』

注意点と予防方法

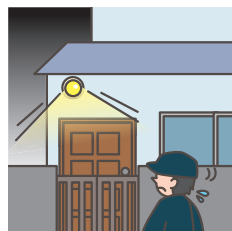
①可燃物は放置しない！

古紙やダンボールなどを屋外に出しておくと、放火されやすくなります。ごみ出しの日まで、室内で保管しましょう。



②暗がりを作らない！

暗い場所は人目につかないため、格好の放火場所になってしまいます。照明などを付け、明るくすることで放火されにくい環境を作りましょう。



放火の火災事例

車庫に置いてあるクルマのカバーに放火された。

対策として、カバーを防炎品（⇒ P.30）に変更した。



火災を防ぐためにはこんな防火・防災

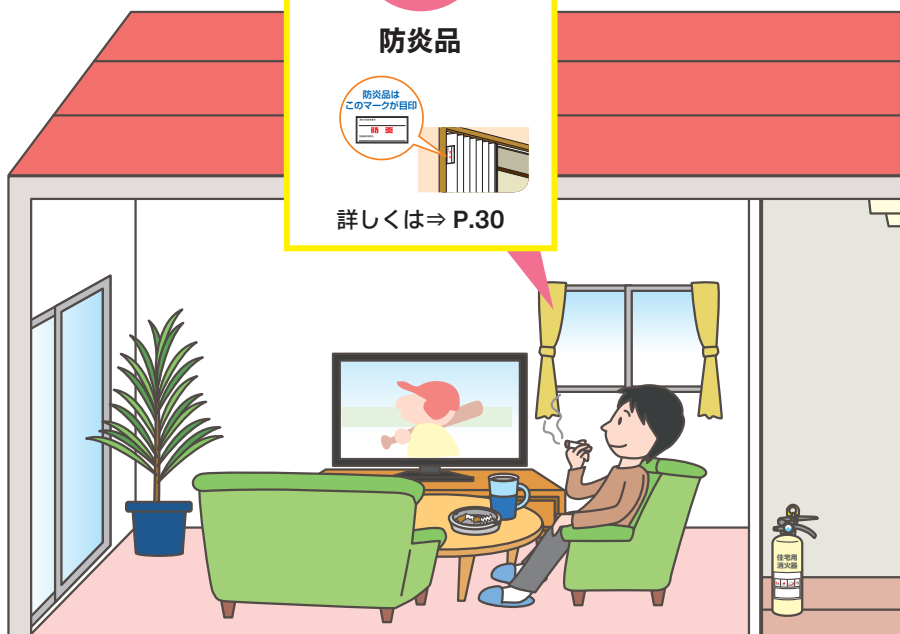
延焼防止

防災品

防災品は
このマークが目印



詳しくは⇒ P.30



出火防止

センサー付きガスコンロ



詳しくは⇒ P.32

製品があります！

初期消火

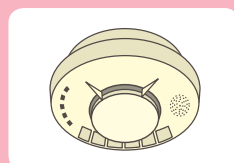
住宅用消火器



詳しくは⇒ P.24 ~ 27

早期発見

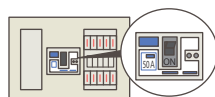
住宅用火災警報器



詳しくは⇒ P.20 ~ 23

出火防止

感震ブレーカー



詳しくは⇒ P.33

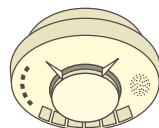
知らせる！住宅用火災警報器は命を守る

▶住宅用火災警報器とは…

煙や熱を感知して火災の発生を知らせます。現在市販されているものは「煙式」と「熱式」で、ガス漏れを検知できるものもあります。

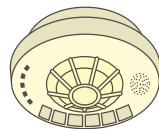
●煙式

煙を感知して火災と判断します。熱式よりも火災を早く感知することができます。



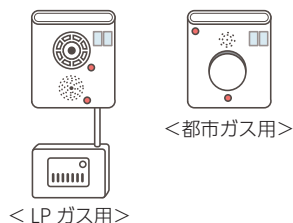
●熱式

熱を感知して火災と判断します。煙が発生しやすい場所（台所や車庫）に適しています。



●複合式

火災のほかにもガス漏れや一酸化炭素も検知できる警報器です。キッチンなどへの設置がお勧めです。



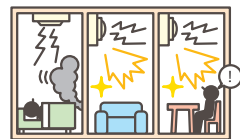
●連動式

無線で連動しており、ひとつが火災を感じるとほかのすべての警報器が鳴ります。



●補助警報装置

住宅用火災警報器と連動して音や光を発するもので、高齢者の方、目や耳の不自由な方にも火災を察知しやすくなります。



(((購入方法等について)))

設置方法

● 新築、改装を計画されている場合

住宅メーカー、工務店にお問い合わせください。

● 自分で取り付ける場合



販売店にお問い合わせください（「住宅防火対策推進協議会」のホームページに掲載されています）。

このほか住宅用火災警報器に関する質問は「住宅用火災警報器相談室」でも受け付けています。

⇒ [フリーダイヤル 0120-565-911](tel:0120-565-911)

購入方法

- ・購入する際には、「住宅防火対策推進協議会」のホームページ等に掲載されている販売店等をお勧めします。なお、消防署が販売することはありません。
- ・ホームセンター等で購入する場合は、住宅用火災警報器の品質を保証する検定の合格表示、または日本消防検定協会の NS マークが付いているものを選びましょう。

合格表示 (検定マーク)	NS マーク (認証マーク)
	
※平成 26 年 4 月 1 日以降の検定に合格したものは、このマークとなります。	※平成 31 年 3 月 31 日までは、このマークが付されたものが販売されている場合もあります。

知らせる！住宅用火災警報器は命を守る

▶ 日頃からメンテナンス・点検をしよう

住宅用火災警報器は長く取り付けられている間に感知部分にほこりが付いたり、台所に設置してある場合は油や煙で汚れて、火災を感知しにくくなる場合があります。いざというときに効果を発揮するためにも、日頃から定期的なメンテナンス・点検をしましょう。

● お手入れ方法

ほこり、小さな虫などは誤作動の原因にもなるので取り除き、年に一度家庭用の中性洗剤などに浸し、固く絞った布で軽くふき取ってください。

※ベンジン、シンナーなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。

※故障の原因になるため水洗いはしないでください。



● 定期的に点検しましょう

住宅用火災警報器から下がっているひもを引く、又はボタンを押すなどして作動試験を行います（1か月に1回程度が望ましいです）。

● 交換の時期

設置から **10年**以上が経過している場合は、本体内部の電子部品の劣化が考えられるため、**本体を交換**することが望ましいです。

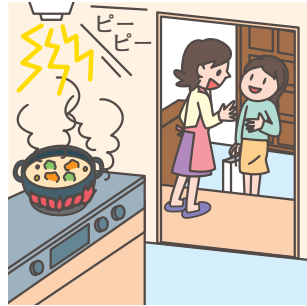
電池切れ警報（ブザー音や音声）や異常警報が出たら、交換時期です。

● 廃棄方法

- ・ 交換後の住宅用火災警報器や電池はお住まいの地域のルールに従って廃棄してください。
- ・ 廃棄するときは、住宅用火災警報器本体から電池をはずすこともお忘れなく。

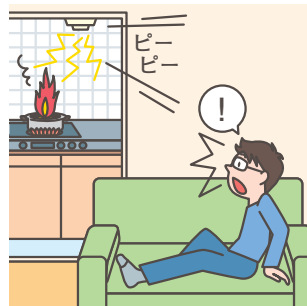
奏功事例 ①

ガス台のグリルを使って料理をしていましたが、少しキッチンから離れてしまいました。その間にグリルに溜まっていた古油に引火し、煙を出して燃え広がりました。住宅用火災警報器の音が聞こえたため、すぐに戻り、消し止めることができました。



奏功事例 ②

ガスこんろの鍋に火をかけたまま寝てしまったため空焚きとなり、発煙してしまいました。台所に設置していた住宅用火災警報器の警報音で目を覚ますことができ、すぐにガスこんろの火を消し、窓と玄関の扉を開け煙を外に逃がし、大事に至らずに済みました。



初期消火に有効！住宅用消火器具

▶住宅用消火器とは…

住宅火災に適した消火器として、誰にでも安全に簡単に操作できることが特長です。使用期間、または期限が本体容器に表示されており、消火剤の詰め替えはできません。

●住宅用強化液消火器

天ぷら油の火災により、効果を発揮します。火元が見えやすく、火元や消火の確認が容易です。



●住宅用粉末消火器

住宅内の火災に対応できます。狭い部屋で使用する場合は、粉末が充満し、視界が悪くなる可能性があります。



▶エアゾール式簡易消火具とは…

スプレータイプの消火具なので、身近なところに置いて、素早く使えることが特長です。女性や高齢者も簡単に使えます。



(((購入及び廃棄方法について)))

住宅用消火器

● 購入方法

ホームセンターや消防設備業者を通じて購入できます。またはメーカーまでお問い合わせください。

● 廃棄・リサイクル方法

消火器の廃棄をする場合は、「消火器リサイクルシール」が必要です。消火器にシールが貼られていない場合は、下の「既製品用消火器リサイクルシール」を指定引取場所（メーカー営業所等）または特定窓口（消火器販売店等）で購入し、消火器に貼り付けて、これらの場所にお持ちください。

ご不明な点は、(株)消火器リサイクル推進センターまでお問い合わせください。

⇒ TEL: 03-5829-6773 <http://www.ferpc.jp>

既製品用消火器
リサイクルシール▶



エアゾール式簡易消火具

● 購入方法

ホームセンターなどで購入できます。

● 廃棄方法

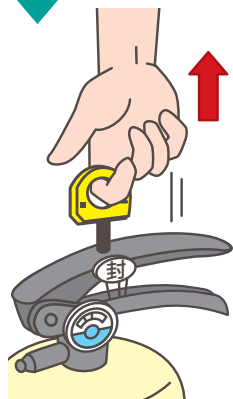
取扱方法、廃棄方法については、取扱説明書をよく読み、必ず中身を使い切り自治体のルールに従って廃棄してください。

不明な点はメーカーや購入した店舗にお問い合わせください。

初期消火に有効！住宅用消火器具

▶住宅用消火器の使い方

慌てず、速やかに万全な消火活動ができるよう、消火器の操作手順を学んでおきましょう。



火元に近付きすぎないようにして、消火器の底を片方の手で支え、ノズルを火元に向けます。



火元に向けて、強くレバーを握ります。煙で火が見えなくなりがちですが、しっかりと火元を狙いましょう。



住宅用消火器具の期限をチェック!

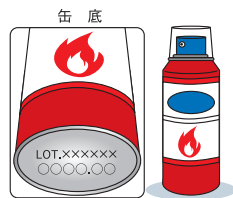
住宅用消火器具にも寿命があります。安全に、安心してお使いいただくためには、下図にあるように、きちんと使用有効期限や品質保証期限を守ることが大事です。

住宅用消火器



本体容器のラベルに使用有効期限が表示されています。

エアゾール式簡易消火具



缶胴部または缶底に品質保証期間が表示されています。



初期消火に有効！住宅用消火器具

▶エアゾール式簡易消火具の使い方

エアゾール式簡易消火具は、天ぷら油火災などに有効です。

●安全な距離を確保する

火元から2～3m離れたところから放射すると安全です。



●消火剤を放射する

火元に向けて放射を続けます。



●完全に消火する

再発火を防ぐため、最後まで放射します。



住宅用消火器とエアゾール式簡易消火具の消火力は異なります。エアゾール式簡易消火具は消火力に限界があるので、ごく初期の火災の消火の場合には効果があります。

奏功事例 ①

火がついたアロマキャンドルを机に置いていたところ、誤って手がぶつかってキャンドルが床に落ちてしまいました。カーペットに火がついたのですが、近くに備えてあったエアゾール式簡易消火具を使い、すぐに消火することができました。



奏功事例 ②

揚げ物を作っていたところ、油の温度調節を間違えて油から出火。台所のエアゾール式簡易消火具を取り出し、無事消火しました。こんろ周りに火が燃え広がることもなく、被害を最小限に抑えることができました。



その他の防火・防災製品

もっと知ろう! さまざまな防火・防災製品

● 防災品

防災品は、素材を工夫するなどして、通常の製品よりも燃えにくい加工が施されたもので、カーテン、ブラインド、じゅうたん、寝具、衣服類などさまざまな商品があります。家庭環境等にあわせて選択しましょう。



防災表示

防災品を選ぶときは、必ず防災表示がついているものを選びましょう。防災表示は、公益財団法人日本防災協会が認定した製品につけられています。



● ガス警報器

ガス警報器は、ガス漏れを知らせるもので、「都市ガス用」と「L Pガス用」があります。台所への設置がお勧めです。



● 明るさセンサー付き保安灯

平時にはナイトランプとして、また停電時は保安灯として、さらに非常時に取り外すと携帯電灯にもなる保安灯。非常時に避難しやすくなります。センサーによって明るさを自動調節してくれる機能付きのものもあります。



その他の防火・防災製品

防火・防災機能のある製品

● センサー付きガスコンロ

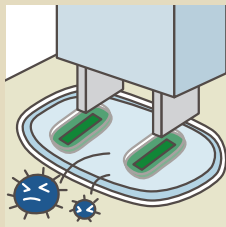
平成 20 年 4 月以降に製造されたガスコンロは、バーナー部分に Si センサーが取り付けられています。このセンサーは、次の機能があります。

- ・ 調理油の過熱防止
- ・ 煮こぼれ時などに自動的にガスを止める
- ・ 点火後一定時間が経過した時点で自動的にガスを止める 等



ホコリ防止電源タップ

ホコリ防止機能を備えた電源タップは、トラッキング現象（⇒ P.11）を未然に防いでくれます。電源タップの入口にふたがしてあるので、コンセントを使用しないときに、中にホコリが侵入する心配がありません。



● 感震ブレーカー

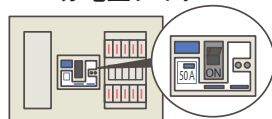
感震ブレーカーは設定した震度の揺れがあった時に、自動的に電気の供給をストップするものです。

地震後に電気が復旧した際に、倒れた暖房機器等で起こる火災を未然に防ぐ効果があります。

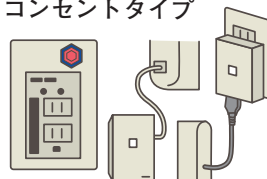
現在、各メーカーから販売されている感震ブレーカーは、主に3つのタイプに分類されています。

- ・分電盤タイプ……分電盤の内蔵センサーが揺れを検知し、ブレーカーを遮断します。
- ・コンセントタイプ……コンセントにセンサーが内蔵されていて、揺れを検知するとコンセントからの電力供給を遮断します。
- ・簡易タイプ……分電盤のスイッチ等に接続するもので、地震が起きると、重りが落下したり、バネが作動するなどしてブレーカーを遮断します。

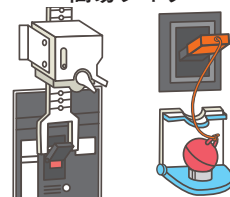
分電盤タイプ



コンセントタイプ

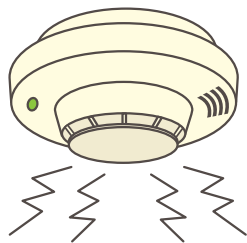


簡易タイプ



住宅用火災警報器が鳴ったら…

まずは、落ち着いて火災かどうかを確認！



スタート!

火元の確認

どこの住宅用火災警報器が
鳴ったか？
何が燃えているか？

火災

消火するか？

▶▶▶ 36 頁へ

する

周りに知らせながら

▶▶▶ 40 頁へ

住宅用消火器等で火を消す

▶▶▶ 24 頁へ

できた

消火



火災が発生？まずすることは？

このフローチャートに沿って行動しましょう。

火災ではない

火災ではない場合

火災ではなく、
住宅用火災警報器が
鳴る場合もあります

しない

できない

周りに知らせながら

▶▶▶40 頁へ

逃げる

▶▶▶41 頁へ




消防に通報する

▶▶▶42 頁へ


消火するか

▶ 消火の判断は？

住宅用火災警報器が鳴った段階では、どの部屋でどのくらいの大きさの火災が発生しているか、はっきりとはわかりません。そのため、まずは現状を確認することが大切です。以下のポイントに留意して、消火・避難の判断ができるようにしておきましょう。




消火する？しない？




消火する

- 火元が確認できる（視界がきく）。
- 炎が天井や自分の背丈よりも小さい。



消火しない

- 火元が確認できない（煙の充満等で視界がきかない）。
- 炎が天井に届いていたり、自分の背丈よりも大きい。



消火するときは！

● 落ち着いて安全確認を

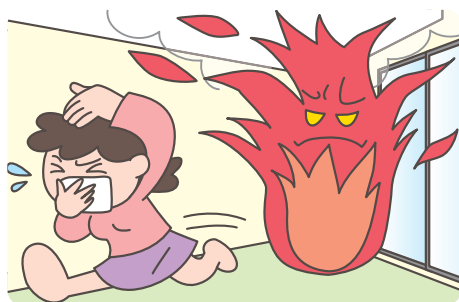
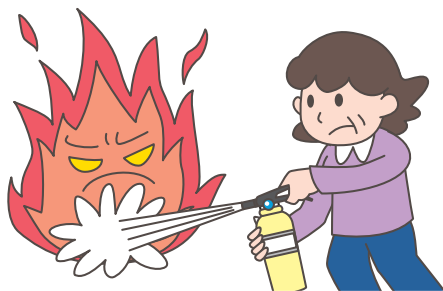
避難する方向、経路など周囲を確認しましょう。

● 住宅用消火器は確実に操作しましょう

火元を狙って放射しましょう。

● 以下の場合、速やかに逃げる判断をしましょう

- ・ 住宅用消火器の消火剤がなくなった。
- ・ 炎が天井まで届いてしまった。
- ・ 消火できなかった。




防災訓練等に積極的に参加しよう

実際に火事を目の前にすると慌ててパニックを起こしてしまうものです。日頃から自治体等で行われている防災訓練に積極的に参加し、いざというときは訓練を思い出して行動しましょう。

火を消すことができたなら

火が消えたら、 チェックすること

- 
- 完全に火が消えたか確認する。
 - ガスを使用していたら元栓を閉める。
 - 電気製品から出火した場合は感電に気をつけて
 - ・コンセントを抜く。
 - ・ブレーカーを落とす。
 - 119 番通報する。



やけどを負ってしまったら？

応急処置として、速やかにやけどした箇所とその周辺を水で冷やしてください。

着衣が燃えてやけどした場合は衣服を無理に脱がさず、そのまま冷やしましょう。



消火後の掃除方法

住宅用消火器の使用後は、放射した液体や粉末が床や壁等に広がっています。

- ・液体の場合は、ぞうきんなどできれいに拭き取りましょう。
- ・粉末の場合は、ほうきなどでかき集めてからきれいにし、その後は水拭きや掃除機をかけるなどしてください。

※フィルター式掃除機の場合は、排気口から粉末が飛散する可能性があります。



住宅用消火器で放射した消火剤が体についたら？

住宅用消火器から放射された消火剤が体についたり、目に入った場合は水で十分に洗い流しましょう。

また、消火剤を吸い込んだ場合はうがいをしましょう。

周りに知らせよう

▶ 大声で周りに知らせる

火災を周りに知らせるときには「**火事だー**」と大声で叫んでください。火災による被害を最小限にするためには、周りに知らせることが必要です。

● 家の中に家族がいる場合

家族に知らせ、協力して消防への通報や消火などを行いましょう。

● 一人暮らしの場合

隣近所の住民に知らせましょう。通報や消火の協力を依頼しましょう。



避難路の確保を


高齢者のいるお宅などは、あらかじめ就寝する部屋を避難のしやすい場所にしましょう。



避難しよう

▶ 避難と判断したら

避難のポイント

- 
- ✓ 持ち物などにこだわらず、身の安全が第一です。
 - ✓ 一度逃げたら絶対に戻らないようにしましょう。
 - ✓ 高齢者や身体に障害がある方がいる場合は、避難を優先させましょう。
 - ✓ 火元から離れるように逃げましょう。
 - ✓ 家族がいる場合、逃げ遅れがないように避難しましょう。
 - ✓ 逃げ遅れた人がいる可能性がある場合は、消防隊に伝えましょう。



煙に注意して避難しましょう！

● 煙の特徴

煙は高いところから溜まり、煙の量が増えると床近くまで下がってきます。

● 煙から逃げるポイント

タオルやハンカチ等で鼻と口を覆い、姿勢を低くして逃げます。この際、煙を吸い込まないように注意しましょう。

消防に通報する

▶ 119番通報のポイント

慌てずに落ち着いて、正しく情報を伝えることが重要です。

● 固定電話からの通報

電話のそばに自宅住所や目標物を書いたメモを備えておきましょう。

● 携帯電話からの通報

- ・ 携帯電話であることを伝えましょう。
- ・ 電話番号は必ず伝えましょう。
- ・ 状況確認のため、消防本部から連絡がある場合があります。



(((消防に通報すると)))

「119」をプッシュ

消防です。火事ですか、
救急ですか？

火事です!!

住所はどこですか？

〇〇市 (〇〇区) 〇〇町
〇〇丁目 〇〇番地、〇〇〇です

◀ 出火場所の住所と名前を伝えます。

近くに何か目標が
ありますか？

〇〇の近くです

◀ 目標となる建物や交差点などを伝えます。
例：〇〇小学校の西側です。

何が燃えていますか？

〇〇が燃えています

◀ 燃えている場所、物を伝えます。
例：住宅の1階台所近くから火が出ています。

燃え方やけが人は？

けが人が一人います
〇〇が逃げ遅れています

◀ 火災の様子・けが人の状況を伝えます。
例：天井に火が届いています。燃え広がっています。
：高齢者が足にやけどをしています。
：2階に子どもがいます。

日頃から家族で話し合っておきましょう

▶ 日頃の準備が大事です

まずは火災を起こさないための環境や習慣づくり、いざというときの心構えを身に付けることが大切です。

火の用心

● 家族で話し合い

火災を起こさないよう、万全の備えをすることが一番ですが、万が一起こしてしまった場合には、家族全員が冷静に行動することが、被害を最小限にとどめるためにも重要です。日頃から消火器の置き場所や使い方についても家族で話し合い、確認しておきましょう。

● 避難方法の確認

家庭内における避難方法を複数決めておきましょう。

● ご近所付き合い

火災などの災害時に支援が必要な方の住まいやその周囲の環境などを掌握して、いざというときに助け合うことが大切です。

日頃からご近所と連携した協力体制をつくっておきましょう。



住宅防火いのちを守る 7つのポイント 3つの習慣・4つの対策

3つの習慣

- 寝たばこは、絶対やめる。
- ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

4つの対策

- 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防災品を使用する。
- 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
- お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。



火災予防のチェックポイント



火災予防のチェックに、この表をご使用ください。

	チェックポイント	✓
たばこによる 火災を防ぐための チェック	灰皿はありますか？	<input type="checkbox"/>
	灰皿にたばこは溜まっていませんか？	<input type="checkbox"/>
	水をかける等、きちんと吸殻の始末をしていますか？	<input type="checkbox"/>
	喫煙場所は決めていますか？	<input type="checkbox"/>
	燃えやすいものの近くでたばこを吸っていませんか？	<input type="checkbox"/>
	寝たばこはしていませんか？	<input type="checkbox"/>
ストーブによる 火災を防ぐための チェック	近くに洗濯物を干していませんか？	<input type="checkbox"/>
	ストーブを移動するとき火を消していますか？	<input type="checkbox"/>
	寝具やカーテンの近くにストーブを置いていませんか？	<input type="checkbox"/>
	スプレー缶を近くに置いていませんか？	<input type="checkbox"/>
	外出するとき消火確認をしていますか？	<input type="checkbox"/>
こんろによる 火災を防ぐための チェック	袖が長い服で料理をしていませんか？	<input type="checkbox"/>
	こんろの周りに物は置いてありませんか？	<input type="checkbox"/>
	こんろ周りにはきちんと掃除されていますか？	<input type="checkbox"/>

	チェックポイント	✓
電気器具類による 火災を防ぐための チェック	コード類の上に物は置いてありませんか？	<input type="checkbox"/>
	コンセントと電気プラグの間にホコリは溜まっていませんか？	<input type="checkbox"/>
	古い電化製品には気を付けていますか？	<input type="checkbox"/>
	タコ足配線はしていませんか？	<input type="checkbox"/>
放火による火災を 防ぐためのチェック	古紙やダンボールなど、放火されやすいものを屋外に出していませんか？	<input type="checkbox"/>
住宅用 火災警報器を チェック	日頃からメンテナンス・点検は行っていますか？	<input type="checkbox"/>
	交換時期を確認していますか？	<input type="checkbox"/>
	廃棄方法を確認していますか？	<input type="checkbox"/>
住宅用消火器／ エアゾール式簡易 消火具をチェック	すぐに取り出せる場所に設置してありますか？	<input type="checkbox"/>
	有効期限等は切れていませんか？	<input type="checkbox"/>
	廃棄方法を知っていますか？	<input type="checkbox"/>
	圧力は適正ですか？ (指針が緑色の範囲内であれば問題ありません)	<input type="checkbox"/>
	本体にキズやへこみは付いていませんか？	<input type="checkbox"/>

防火・防災製品のお問い合わせはこちらから

■ 一般社団法人 日本火災報知機工業会

TEL : 03-3831-4318

■ 一般社団法人 日本消火器工業会

TEL : 03-3866-6258

■ 一般社団法人 全国消防機器販売業協会

TEL : 03-5566-0821

■ ガス警報器工業会

TEL : 03-5157-4777

火災から命を守る

住宅防火読本

平成29年1月発行

編集・発行：一般財団法人 日本防火・防災協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16 日本消防会館5階

電話 03-3591-7123/FAX 03-3591-7130

URL <http://www.n-bouka.or.jp/>

印刷・製本：東京法令出版株式会社



火災から命を守る

住宅防火読本